



114
A1883



明治七年四月十七日

大花卿

輔 秘視頭 助

内務卿 輔

營業免許證を發行し由事上申案
凡施視之法タル宜ニク公平均一ニ
更ニ輕重偏頗ノ憂ナク當否ニ應ニ實ニ
協心務稱致意正之待ナルヲ

大正十一年四月
限正
侯爵郵寄贈



既得此慣習ノ久シキ一物之ヲ悉ク
改正セント要スル中ノ帝ニ其支業ヲ起ス
難中ノミナラス又物議紛征却る臨滯
ノ怖レモ有ク依テ漸以整正スルノ途
退ク御施行あり本既ニ如券稅ノ令
アリ次テ印紙稅ノ令家祿官祿稅ノ令
アリ或ハ僕婢車馬稅ノ令アツテ人氏
其分ニ隨テ各稅ヲ負擔スト雖モ特リ
高賈ニ至テ亦賦課ノ稅ナク大ニ均一ノ
衡ヲ傾ケ給ヘ給ヘ然モ亦業ノ課稅ア

ラニハ心あり事々存後ヒ去る業
稅ノ儀ハ曰藩々長安ノは東ニ一府
一縣毎ニ稅法區々就中一車馬府下
ノ如キ無稅ノ府街アリ其他亦無稅ノ
所々アリテ如何ニモ公平ヲ極ムル
一稅ノ規則ハ確定ヲ要スル譯ニハ
形得共目今鐵密精詳ノ高稅法
以發令あり給ヘ給ヘ人氏亦慣習ヨリ
往々苦情モ少ク儀ト想像は給ヘ給
之ツ諸高業中業件ヲ淘汰致シ

其處所純營業筋ノ者、**渾**ニ奢偏
贅業ニ涉リ其者ニ賦稅ヲ本當
儀亭以其易キヨリ着手施行致
其依之稅法中、最モ容易ニ之テ
施行トヤスキヲ謀リ別冊營業現
存一覽規規則 調査ハ僅ニ楷梯
ヲ起シ而實地ノ景況ニ應ジ逐次
其業ニ推歩シ早晩公平均一ノ方
法ニ拘ルル程致シテ以段及上申
致也

明治七年四月 大藏卿大隈重信

大藏大臣大隈重信殿

大藏省

[Blank lined area]

所布告案

諸營業之儀
津之通
受之營業
事

明治七年四月

營業鑑別規則

第一條

一 今般ル之營業之者其鑑別之海は
業身以以本年一月下後其鑑別之
營業致之其心切之其禁之事

第二條

一 鑑別之其之營業品之者并營業
移之區外之通之事

業名

營業種

一 諸海商人

卸商人
小賣商人

金三田
金三田

一 料理海世

海世
料理海世

金三田
金三田

一 糧海燒海世

金三田

一 海身物商人

卸賣商人
小賣商人

金三田
金三田

一 菓子菓子物商人

卸賣商人
小賣商人

金三田
金三田

一 繪紙或錦海商人

卸賣商人
小賣商人

金三田
金三田

但し又菓子菓子物商人并海身物

商人中其自店之商買之致

致之其店之方此之少之營業

致之其店之方切除之其事

之營業之者之自之製之其或之他之

製造物等より受伸賣年々有るに
卸賣の事一は名に都の卸賣商人
あり又問屋仲買并製造人の等
買入自店より賣致しは名に何れ
少き賣商人とありし事

但諸酒商人の酒造り人等
全く他人の製造せし酒を卸
賣致しは名に限りて
ありし事

元三

一はもも営業の事一は名に都
より明治元年一月より其
迄戸長より其営業の
事の事

但鑑れ致文の事一は名に
申云べし一は名に戸長より
ありし事

元四

一は鑑れありし営業の事一は名に
七月より其

地逼入長くあり納す事

但し祝額取纏の上區入る事
其管轄廳に差出さる申事

次五條

一 鑑札所持者代替阿名并譲渡
者若改又く水中盜難等處
失く次第新鑑札を受給せしむ
三條より譲り心あり文に事

但全く自にふる漏寺に鑑札
紛失の事新鑑札を受給す

名に限りぬ料 金拾五錢

あり納す事

次六條

一 鑑札を交新規營業者ある營業
初より月割らん其開業之日
取らるる營業初より納す事

但舊業に鑑札返上りある者
あり月割らん營業
初より納す事

次七條

一 鑑れのみ又營業前と名す鑑れ
ノ多營業後と名すノ多營業税
ノ少信留ノ料 たる角ノ事

次ノ條

一 營業税ノ納期限ノ急ク或
者改鑑れヲ行ハシテ
納付ホクノ申出ルノ事
主トシテノ事 渾ノ營業税
ノ信留ノ料 たる角ノ事

此ノ條ノ事速ニ守テ

此ノ條ノ事

